

令和4年度 学校関係者評価及び改善策

( 中間・最終 )

天応中学校区 校番22 学校名 呉市立天応小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切と思います。目標と指標の設定は年当初の方針として設定されるので、それを目標として推進してください。</li> <li>正答率85%は厳しいのでしょうか。</li> </ul>
目標達成のための方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切と思います。各項目ともその目標達成への方策であると思います。</li> <li>振り返りを定着させ、基礎基本の徹底を図っていただきたいです。</li> <li>出された方策で良いと思います。他に方策があるかどうかわかりません。</li> </ul>
自己評価の結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切と思います。点数評価も前回より上昇していますし、努力の跡が見えます。先生方の職務外の仕事による在校時間の問題はこれからの課題ですね。</li> <li>的確に現在の状況を把握され、次につなげようとしているので素晴らしいと思いました。</li> <li>概ね適切に分析されていると思います。</li> <li>先生方の変なことを改めて思い、頑張ってくださいていることに感謝しました。</li> <li>振り返りが重要と考える児童が多いことがわかります。継続してほしいです。</li> <li>デジタル化となり、メディアコントロールは家庭でも難しくなっています。大人もできないところがあると思いました。</li> </ul>
今後の改善策(案)の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切と思います。各項目の問題解決のために取り組むことが目標達成の意識向上につながり、改善度がより達成されると思います。</li> <li>具体的に課題を改善されるように示して下さっていますので、とても良いと思いました。</li> <li>継続する取組や更に深めていくものなど計画してあり、適切だと思います。</li> <li>授業の大切さは当然のことですが、自己肯定感を高める方策を進めていけるような取組を期待します。</li> <li>自己肯定感を高めるためにも、成功体験や人とのふれ合い、笑って話すことが大事だと思います。</li> <li>教職員のプライベートを充実させることの一貫として、職員内での朝礼の中で、普段の休みの日に「こんなことに取り組んでいます」のような発表をしてはどうだろうか。(ワークライフバランスを大切にす為)</li> <li>メディアコントロールの意図を児童にも家庭にも再認識させる必要があると思います。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の子供達は素直で挨拶もしっかりできます。これから地域との交わりも多くなり、自分が地域に対して何が出来るかの教育も必要なと思います。</li> <li>新体育館建設・旧体育館の撤去と連続して行われ、特に児童には落ち着かない時間の連続だったことと思います。今後は、落ち着きを取り戻せることを期待します。</li> <li>開校に向けて先生方もお忙しくて大変だと思います。どうぞ身体に気をつけてくださいますように。先生方の働き方に余裕ができるように、もっとよい策はないものではないかと思ひます。</li> <li>子供たちへ、あいさつから始まってどんどん声をかけていきます。</li> </ul>

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科においては、「子供の問いを生かした課題・多様な考えを生かした展開・学んだことを生かして一人一人が自分の考えを表現する」、算数科では、「子供の問いを生かした課題・つまずきや誤答を生かした展開・適用題までやりきる」という視点で授業改善を行う。</li> <li>○AIドリルを活用して、児童の学習進度に合わせた個別最適な学びを取り入れて、基礎的・基本的学力の定着を図る。</li> <li>○自己肯定感を高めるために、1～9年生の関わり、地域との関わり等、人とつながりかわる活動を意図的に仕組む。</li> <li>○メディアコントロールに関わる取組については、児童や家庭が、メディアをコントロールすることのよさを理解できるよう啓発活動を工夫する。</li> <li>○ワークライフバランスの意義を校内に浸透できるよう研修等に取り入れる。また、一つの学園となることから教職員の全体数が増加することを働き方に生かす。</li> </ul>
--------------------	---